



きよくり NEWS

CONTENTS

- ・年頭のご挨拶
- ・きよくり NEWS
発行 50 号に寄せて
- ・私のオフタイム
素敵な出会い



Muraguchi Kiyokuri Women's Clinic



新年あけましておめでとうございます

女性に福音をもたらしたピル開発の歴史を知らねばと・・・

日本でピルが正式認可されたのが 1999 年 9 月だった。たまたま当院が開院した年でした。以来 17 年が経過し、当院でも現在たくさんの女性にピルを提供しているが、日本全体のピル普及率はいまだ数%に留まっている。性行動の開始が早まり、女性の平均初婚年齢が年々上昇し、子宮内膜症など不妊症に関連した病気が増えてきている今日にあって、ピルの普及は、日本社会の「リプロダクティブ・ヘルス / ライツ（性と生殖のための健康と権利）性の健康」のための重要な選択肢、鍵を握っていると言っても過言ではない。

マーガレット・サンガー（1879～1966）をご存知でしょうか。

彼女は避妊を語ること、そのこと自体が法に触れ処罰された時代にあつて、産児制限（受胎調節）の活動家として果敢に戦い生き続け、「女性が自分の性を、自分でコントロールしなくては、真に自分らしく生きることはできない」と主張し、彼女の思想は「リプロダクティブ・ヘルス / ライツの源流」と言われている。彼女は当時の避妊法（リズム法・ペッサリーなど）の限界に落胆し、女性の性周期・ホルモンの仕組みに関わる避妊薬の必要を痛感し、科学者グレゴリー・ピンカスに切願したのでした（1951年）。彼は「ピルの父」として知られているが、当時動物の卵の研究者であり、ラビットとラットを用いプロゲステロンの持続投与が長期に排卵を抑制することを確認していた。直ちに彼は長年の友人である不妊症の研究・治療に関わっていた産婦人科医ジョン・ロックと共同研究を開始した。ロックは不妊女性に治療目的でエストロゲンとプロゲステロンを投与すると、排卵を抑制し治療中は妊娠しないことを確信していた。ピル開発に向け、まさに機は熟していた。程なくして 1955 年ついにピンカスにより経口避妊薬の発表となったのである。実はもう一人の女性キャサリン・マコーミックの存在が重要です。彼女は裕福な女性でサンガーの講演を聞いたことがきっかけとなり、避妊普及運動に資金援助を続け、夫の死後巨額の資産を相続し、ピル開発に莫大な資金を援助したとのことです。

ピル開発には、サンガー女史の熱い苦闘の戦い、医学・科学への志向・・・、科学者・医学者ピンカスとロックそして篤志家マコーミックが幸いにも繋がり、スピード実現したと言えます。とはいえ、もう一つ重要なことは、当時女性たちが「自分たちの妊娠性を自分たちで管理したい」という社会的な機運が高まっていたことです。妊娠・出産の当事者である女性たちが避妊薬を待ち望んでいたものであり、そうした彼女たちのエンパワーメントされた力が社会に変革をもたらしたことを心に留めたいと思う。

その後幾多の経過を経て 1960 年 5 月米国でのピル承認となった。翌年に日本にピルが持ち込まれたが、「性のモラルが乱れる、安全性が問題になる・・・」として認可は先送りされ続けたが、さにあらんとと言えることと思うが、男性のためのバイアグラがスピード承認されてまもなく、ついに 1999 年日本でも正式認可されたのでした。以来ピルは改良され続け、副作用に繋がるエストロゲンの低用量化が実現し、より安全なピルへと進化し続けてきた。

今年も心機一転、女性の健康支援のため精進してまいりたいと思います。ご支援・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

院長 村口 喜代

きよくり NEWS 発行 50 号に寄せて

医療法人社団 村口きよ女性クリニック監事 國乗和夫さん



1999年5月 開院祝宴

きよくりNEWSの発行50号を心よりお喜び申し上げます。院長先生とスタッフの皆様の情報発信意欲と発信力・継続力に敬意を表します。私は法人の監事として開院当初より医業経営をお手伝いさせていただいておりますが、常々考えますに、きよくりNEWSの意図するところは、「病（やまい）は働く環境や生活習慣、物の考え方からくる行動とメンタル面にも原因がある」とのサジェスションだと思っております。医学学会のデータに基づいた報告、および世相への分析はその根幹ではないでしょうか。最近の巷の情報発信の特徴は、評論家的（方向を示さない事象の羅列）と無記名で責任を取らない投稿が多いことだと思います。きよくりNEWSはこの対極にあり、信念に基づいて方向性を指し示す発信であると思います。また、スタッフの皆様の学会報告や実生活での考えることの投稿も

事実から発しているの、なるほどと感心したり、そういう考えもあるかと思ったり興味深く読んでおります。

最後に、定期的な発信は紙面に表れる何倍もの力が必要だと思いますが、今後とも、私どもや患者さんが「方向を見い出せる発信」をお願い致します。

クリニックとともに歩んでまいりました



2004年 高知・四万十川



2008年 輪島・金沢に旅して



2014年 開院15周年記念祝宴

私のオフタイム ～素敵な出会い～

2015年9月、記録的な大雨の次の日、長男が子猫を保護しました。子猫といっても、本当に産まれたばかりで、目も開いていない真っ黒な小さな命の塊でした。それから3時間毎の授乳と排泄を繰り返して…家族全員で溺愛して育てました。猫との暮らしは想像以上の癒しです。存在してくれているだけで穏やかな気持ちになれます。私たちが助けられているなあと感じています。

我が家に来てくれてありがとう、まめ太。



2015年9月

2016年9月

【臨時休診】

現在、臨時休診の予定はございません。



【編集後記】

みなさま、新年あけましておめでとうございます。今年はどうな一年になるでしょうか。それぞれの願いが叶う素敵な年になりますように ☺

今年もきよくりNEWSをよろしく願い致します。

発行元：村口きよ女性クリニック
<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>
 e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp

